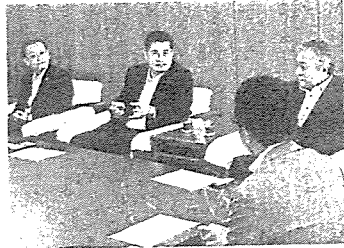


企業視察 海外から呼び込め

桑名市、年内にもツアー計画



中国の企業が日本での視察に何を求めるかなどを伊藤徳宇市長(手前)に語る丁汝峰氏(左から2人目)ら。桑名市役所

伊勢志摩サミット関連行事のジュニアサミットが開かれた桑名市で、海外からの企業視察を呼び込む計画が進んでいる。7、8の両日、中国で日本企業を紹介してきた実績をもつ現地の関係者が市内を視察した。市は視察の受け入れ先の企業を増やし、年内にもツアーを始めたい考えだ。

市を訪れたのは北京中産連経済技術有限公司の丁汝峰氏ら。中部産業連盟(中産連、本部・名古屋市)の協力先で、中国の企業に日本での視察先などを紹介している。桑名では伝統的産業の鋳物工場のほか、大型スパー、工作機械会社、醸造会社などを見学した。

7日夕に伊藤徳宇市長を表敬訪問した丁氏は「中国の企業は日本企業のさらに深いところを知る研修を真剣に求めているが、桑名にもその需要に応えるものがあつた」と話した。

ジュニアサミットをきっかけに、桑名市は海外からの旅行客を増やしたいと考えている。市内に滞在してもらえれば経済効果が期待できるからだ。

市は、自動車関連の精密機械などを扱うエイベックスなど、海外からの視察が多い市内の企業と情報交換を進め、市独自の企業視察ツアーのプログラムをつくらうとしている。

(中根勉)